

## 「植民地の学校制度(1)」(2022年09月23日)

VOCが破産してバタヴィア共和国が正と負の遺産を引き継いだ後、東インドはオランダ→フランス→イギリスと宗主が転変してから1816年に新生オランダ王国に返還されて、オランダの植民地としての第一歩を踏み出した。植民地政策の中にももちろん教育問題が含まれている。まず、植民地に在留するオランダ人の子弟に対する教育に焦点が当たった。対象はすぐに同じ宗教文明の中にいる他のヨーロッパ諸国人に広げられた。

1817年、7年制の Europees Lagere School 略称ELSが東インドにいるヨーロッパ人子弟の教育のために設けられたのである。このユーロペーラヘレスホールは19世紀を通して東インド在留ヨーロッパ人だけを対象にしていたが、本国政府が始めた倫理政策のおかげで1903年にプリブミに門戸が開かれ、プリブミ上流階層の子弟にも入学が認められるようになった。プリブミのプリアイ層だけでなく華人の富裕層も入学することができた。

しかしどうやら、すべての民族の子を集めて行うヨーロッパ式教育が種々の問題をはらんでいることが明らかになったようで、植民地政庁はELSをヨーロッパ人子弟専用に戻し、1907年にアジア人向け教育を行う学校を別に設けて生徒を分離させた。更に1908年にはプリブミ向けと華人向けを分離させて別々の学校を開いている。

ただしそれは人種を基準にして学校を分けたのではなく、カリキュラムをヨーロッパ人向け、プリブミ向け、華人向けにしたために対象者のマジョリティがそのように分かれる結果になったのであり、決してアパルトヘイトを意図して行われたものではないように思われる。たとえば華人向けカリキュラムの中に中国語の教科が含まれているために、普通のヨーロッパ人やプリブミにはそのような教育を受ける必然性がないから、非華人は華人向け学校へ行く傾向を持たなくなるというようなことだ。

子供を完全なヨーロッパ文化の中で育てようと望んだプリブミの親は子供をELSに入れたし、オランダ系プラナカンの子供がプリブミ向け学校に通うということも少なくなかった。スカルノ、ハッタ、ドクトルストモなど民族独立の志士たちの学歴を見ると、ELSという言葉があちこちに散見される。

このように学校名からして人種分離あるいは人種隔離を思わせる名称を使いながらも、実態は人種を絶対的な基準に置かず、人種とは無関係にそこに設けられた条件に合わせて本人が持った意志を受け入れる内容になっていた例を、われわれはバタヴィア蒸気トラムや電気トラムの等級制度に見出すことができる。それらのトラムも一等二等三等の車両に分けられ、一等車はヨーロッパ人と印欧混血者、二等車はアラブ人・華人・プリブミ貴族、三等車はプリブミ平民が対象乗客で、料金がそれぞれ異なっていた。ところが一等はヨーロッパ人用などと表向きは謳っておきながら、一等料金さえ払えばプリブミも一等に乗って決して追い払われることがなかった。

しばしばオランダ人の植民地政策は人種差別の典型例として引き合いに出されるし、政治や住民管理行政において実際にそれがひしひしと感ぜられるようなものもたくさん持っていて、イギリス人の姿勢に比較するとオランダ人のエキセントリックさが浮き出されるのが常なのだが、上のような公共の場における、まるで腰砕けのような人種差別の例を見るなら、オランダ人の身辺にしみついた既存のイメージとまるで裏腹な事実が存在することをわれわれはどう解釈すればよいのだろうか？

プリブミ子弟を集めた学校は Hollandsch-Inlandsche School 略称HISと命名されて、1914年からその名称が使われ始めた。華人学校の名称は Hollandsch-Chineesche School 略称HCSとされた。ELS・HIS・HCSはすべて7年間の初等教育だ。

学校での教育はオランダ語を媒介言語にしたから、どの学校にせよ、学校に上がった生徒は必然的にオランダ語と母語の二重言語者になっていった。植民地時代のプリブミンテリは母語が異なっても、たいてい両者間に共通な地方語あるいはオランダ語で意思疎通ができていたようだ。[ 続く ]

## 「植民地の学校制度(2)」(2022年09月26日)

ELSの上級学校として、1860年バタヴィアに Gymnasium Koning Willem III が開かれた。開設当初はそんな名称が付けられ、それを略してKW?(ka-we-dri)と愛称された。名称はヒムナジウムでも内容は普遍的な中等教育だった。中等レベルの学校網が全国的に拡大されていく中でカヴェドリは Hogere Burgerschool 略称HBS と呼ばれるレベル名称の中に含まれていった。発足当初HBSの修業期間は3年間だったが後に5年間に延ばされた。

HBSの全国展開は少し間をおいてから、1875年スラバヤ、1877年スマラン、1911年バタヴィアに Prins Hendrikschool te Batavia (PHS)、1915年バンドン、1919年バタヴィアにカヴェドリ分校、スラバヤとバンドンにもHBS分校、1927年マラン、1928年メダン、1931年ジョグジャ、1937年バイテンゾルフ、バタヴィアにキリスト教HBS、1939年マカッサル、またバタヴィアとスラバヤにウルスリン修道女HBSと主要都市に続々と設けられた。

1874年からHBSへのプリブミ子弟の入学が可能になっていたから、HBSの全国展開というのはプリブミ秀才の養成に貢献した面が小さくなかったことだろう。植民地時代のHBSの歴史を通して、プリブミ卒業生は147人いたそうだ。

HBSが設けられたそれらの諸都市にはまた、HBSとは別にギリシャ語とラテン語の古典を教える Lyceum も開校した。

一方、HIS/HCSの上級学校として3年制の Meer Uitgebreid Lager Onderwijs 略称MULOが作られ、広範な全国展開がなされて1930年代末にはジャワ島のほとんどすべての県に必ずMULOがあった。しかしジャワ島外はMULOのある県の方がまったくのマイノリティだった。

MULOでも教育はオランダ語が媒介言語に使われ、カリキュラム内の言語教育もオランダ語・アラブ語・ムラユ語・地元地方語の四つの言語が教えられた。言語以外には数学・幾何学・自然史・歴史・地理などが必須カリキュラムになっていた。

MULOを卒業した生徒は Algemene Middelbare School 略称AMSに進学できた。1916年に設立が決定されたAMSも修業期間は3年で、授業はオランダ語でなされた。AMSはMULOとオランダ本国の大学の橋渡しの機能を果たすことになり、東インドにいる大学進学希望者をオランダの大学に受け入れるために必要なレベルの教育がそこで与えられ、AMSを卒業すればオランダの大学への入学資格を得ることができた。しかしその後、東インドに大学教育レベルの種々の学校が設けられていったことから、オランダへ行くことなく、東インドの中で子供に最高学歴を付けさせる親の方が圧倒的に多かったことは言うまでもない。

1919年にヨグヤカルタに数学自然科学系のAMS-Bが開校し、1920年に文科系のAMS-Aがバンドンに設けられた。1930年代の東インドにあったAMSは、メダン、バンドン、スマラン、スラバヤ、マカッサル、ヨグヤカルタ、ソロ、マランなどで、いくつかの私立学校にもAMSに準じる資格が与えられた。

ヨグヤカルタのAMS-Bでは1922年に第一回卒業生の修業式典が行われ、ヨーロッパ人13人、プリブミ14人、華人5人の合計32人が大学進学資格を与えられた。その中に女性が3人混じっていたとのことだ。12人の卒業生は1920年にオープンしたばかりのバンドンの工学系高等学校THSに進学した。他の卒業生の中にはオランダの大学に入った者もある。[ 続く ]

## 「植民地の学校制度(3)」(2022年09月27日)

ヨグヤのAMS-Bは10年間に292人の卒業生を送り出した。292人中の168人がプリブミだったそうだ。そのうちでバンドンのTHSに進学した者は50人で、その間にTHSを卒業してIr.の学位を得た者は12人あった。オランダのデルフト大学に入った者は7人、残りのうちでバタヴィアのヴェルテフレーデンに設けられた医学と法学の高等学校に入った者も少なくなかった。

そのようなエリートコースとは別に、オランダの倫理政策は草の根階層プリブミをもターゲットにして3年間のVolkschoolを村落部に開いた。プリブミはこの学校をSekolah Desaと呼んだ。

この学校は完全無料だった。その時代、村落部の子供たちは親の農作業を手伝うのが当たり前の慣習だったから、行政側は子供の生活の何時間かを強制的に取り上げて学校へ来させた。村役が各農家に子供を学校へ行かせるよう命令したのだ。村の子供たちはそこで読み書き算数を習った。

更に1914年、村学校を終えた者が進学できるVervolgschoolが各県の中心都市に設けられた。このフェルフォルクスホールを終えれば5年間の初等教育を終えたことになる。この学校をプリブミはOngko Loroと呼んだ。後にスコラデサとオンコロロは合併されて名称もSekolah Rakyatになり、日本軍政期にはKokumin Gakkoと呼ばれて修業期間が6年にされた。インドネシア語記事の中にはフォークスホールをスコララヤツと述べているものが少なくない。翻訳すればその通りになるわけだが、この項については対応関係があやふやで、正確さにおいて確信が持ちにくい。

この草の根教育の領域内にあるフェルフォルクスホールがオンコロロと呼ばれたのは、植民地政庁がこの分野を二級教育と形容したからだ。元々の発端は教育行政に関する決定書の中でHIS/HCSが一級学校De Scholen der Eerste Klasseと呼ばれ、村学校は二級学校De Scholen der Tweede Klasseと位置付けられた。その一級学校・二級学校をジャワ人はジャワ語でOngko Siji・Ongko Loroと呼んだ。

各県の中心都市にはまた、5年制のSchakelschoolが開かれて、二級教育の生徒が通った。このシャクルスホールと村学校の関係が良く分からない。村落部と都市部でという場所の違いの上で並立していたのだろう

国民学校

か？

またシャクルスホールはオランダ語を学びたい子供たちが通ったという話もあり、それは課目の中にオランダ語の授業があったということを意味しているように思える。まさかオランダ語を教育の媒介言語にしたわけではあるまい。シャクルスホールの卒業生はHIS卒業生と同じ学歴と見なされた。

上に述べたものが、一般的な公的教育における初等・中等レベルの学校の種類だ。学校が設けられても、教員がいなければ教育活動は回らない。プリブミを教育するための教員養成は、植民地政庁が村学校などのオンコロロ教育に着手するはるか以前から、教育行政とは異なる場で行われていた。キリスト教宣教団の布教にからめた信徒教育のための教員養成がそれである。

宣教団が各地に拠点を置いたとき、そこに学校が開かれた。行政が関与したとしても、それは行政が主導権を持つ教育行政の範疇ではない。1834年、アンボンに教員養成学校が作られ、全ヌサンタラに開かれた宣教団のプリブミ教育の学校で必要とされる教員の養成が長期にわたってアンボンの一カ所で行われた。宣教団は1852年になってミナハサにもうひとつの教員養成学校を設け、1855年にミナハサのタナワンコで三つ目が開校された。[ 続く ]

## 「植民地の学校制度(4)」(2022年09月28日)

植民地政庁が国民のための学校教育を考慮に入れて教員養成に着手したのは1851年のことで、翌1852年に東インドで最初の Kweekschool がソロにオープンした。この学校は中部ジャワのプリアイの子弟をリクルートし、植民地で必要とされるプリブミ国民を育成するための教員に育て上げた。教育のための媒介言語はジャワ語とムラユ語が使われた。この学校は1875年にソロからマグランに移転した。

クヴェークスホールとは、昔の言い方をすれば師範学校だ。プリブミ教員育成を目的にしたため、正式名称は Hollands Inlandse Kweekschool 略称HIKとされた。後にHISが開かれるようになると、教員になりたいHIS卒業生の通過プロセスという位置付けになった。

HIKの設立はその後続々と全国展開されていった。1856年ブキッティンギ、1864年タパヌリ、1873年トンダノ、1874年アンボン、1875年プロボリンゴとバンジャルマシン、1876年マカッサル、1879年パダンシデンプアン。

政府の財政状況に翻弄されるのが教育分野であったのは昔もいまも違いがないようで、続々と設ける一方で、閉校もあっさりで行われた。タパヌリは1874年、1875年がマグランとトンダノ、1891年パダンシデンプアン、1893年バンジャルマシン、1895年マカッサルなどと閉校が行われている。

HIKではオランダ語が1865年から選択教科として始まり、1871年には必修科目になった。しかし1920年代になると、必修科目どころか授業の媒介言語にされてしまった。オランダ語ができなければ公的教育機関で教鞭を振るうことができなくなったわけだ。

一方、ヨーロッパ人向け公的教育機関で教える教員の養成は、バタヴィアとスラバヤで公的な夜間学校が開かれただけで、更なる需要への対応は宗教機関がバタヴィア・スマラン・スラバヤで行っている教育者養成に下駄を預ける形になっていった。

この Europese Kweek School 略称EKSでは授業がオランダ語で行われ、プリブミやアラブ系中華系の子弟も入学できたがオランダ語の能力がたいへん重視された。オランダ語が自在に操れなければ授業についていけないのだから、自然と脱落してしまうことになる。ある年の学生数28人のうちで、オランダ人は20人、アラブ

## 師範学校

／華人が6人、プリブミは2人しかいなかったという話だ。ここでもユーロペースと銘打っておきながら入学者の人種差別はなく、実力によってそのような傾向になってしまうありさまをわれわれは目にすることになる。

更にその上級師範学校として Hogere Kweekschool 略称HKSがジャカルタ・メダン・バンドン・スマランに設けられた。HKSを卒業すれば、初等教育レベルの学校の校長職に就くことができ、あるいは私立学校を開くことも可能だったから、HKS卒という肩書は教育界でのエリートとして、且つ教育ビジネスのオーナーとして社会的有力者になれる王道だったにちがいない。

一般的な初等中等教育を終えた者は専門分野の高等教育を受けて、専門家として世に立つ人間になる。各分野の専門家を輩出するために、植民地政庁は次のような高等教育機関を設けた。だが20世紀に入ってから整備されていった東インドにおける高等教育は、発展充実するための期間がたいして残されていなかった。オランダ人がその発展充実にあまり手腕を振るわないうちに、その主導権が他の者たちに握られてしまったのである。

1876年に農業系の初等学校 Landbouwschool ができた。その上級学校は1911年のボゴールに設けられた Middelbare Landbouwschool だ。ボゴールの農業学校を卒業すれば、副農業コンサルタントの地位に就ける資格を得ることができた。正農業コンサルタントになるためには、オランダのヴァヘニンヘン Wageningen にある Landbouw Hogeschool を卒業しなければならなかった。

しかしオランダまで行かなければ資格がもらえない状態は1940年に幕を閉じ、その年ボゴールに Faculteit der Landbouwwetenschap が開かれて東インドの中で正農業コンサルタントの資格が得られるようになった。この農業科学学院が後のボゴール農科大学の前身である。[ 続く ]



## 「植民地の学校制度(5)」(2022年09月29日)

植民地政庁はまた、直轄領を増やす方針を立てて硬軟種々の手法でプリブミ王国の領土を削って行った。しかし直轄領の行政統治にヨーロッパ人だけを当てては追いつかない。しかも末端レベルの行政をうまく行うためには、すべて異民族の手で行えるわけがないから有能なプリブミのアシスタントが必要になる。

そんな状況を反映して、プリブミ官吏の養成を目的にする5年制の Hoofdenschool が1879年に開校した。マグランのホフデンスホールは1900年に Opleiding-school voor Inlandse Ambtenaren 略称OSVIAと改称された。更に1929年になって名称が Mid-delbare Opleiding School voor Inlandse Ambtenaren 略称MOSVIAに変わった。MOSVIAはバンドン・マグラン・マディウンに置かれた。

MOSVIAへの入学資格はMULOの卒業生に与えられ、MOSVIA卒業生は行政管理システムヒエラルキーの末端であるアシスタント職に任じられた。かれらは職務業績が好評価を得ればヒエラルキーの上位に昇って行くことができた。そのヒエラルキーとは、pembantu - mantri polisi - camat - wedana - patih - bupati だ。最高位のブパティはオランダ語で regent レヘントとも呼ばれた。

熱帯病の巣窟である東インドの自然に対処するために、医師養成も植民地政庁にとっての急務のひとつになっていた。プリブミの保健医療のために、ヨーロッパ文明に即したプリブミ医師を作り出さなければならない。

まず最初に Docter Djawaschool が修業期間2年で1851年に設立され、1875年になってから修業期間が6年に延長された。この学校は1902年になって一層の充実化がはかられ、名前も School tot Opleiding van Inlandse Artsen 略称STOVIAと改められた。STOVIAの卒業生にはプリブミ医師 Inlandse Arts の称号が与えられた。1927年、STOVIAは Geneeskundige Hogeschool 略称GHSに転換されてHBSとAMSの卒業生を受け入れることになった。

スラバヤには1914年に Nederlands-Indische Artsenschool 略称NIASが開かれ、MULO卒業生を受け入れて医学教育を行った。

法曹界のプリブミアシスタント受け入れも進められた。1909年、バタヴィアで法曹関係の高等教育をプリブミに施すために Rechtsschool が開かれ、卒業生には Rechtskundige (法律家) の称号が与えられた。この学校は1924年に Rechtshogeschool 略称RHSに転換されている。それ以後、卒業生は法学卒の学術称号 Meester in de Rechten を名乗ることが許された。この称号は Mr.という略式表記が行われたので、独立闘争期のプリブミ活動家の中にしばしば、名前の前に Mr.を付けている人物が見受けられる。英語の尊称であるミスターと混同してはいけない。

工学の世界でも1920年バンドンに Technisch Hogeschool 略称THSが設けられた。これは最初オランダ人農園主たちが始めた企画で、プレアンガープランターズたちを中心にする農園オーナーたちが工学知識を持つ農園従業員育成のために民間学校の形でスタートさせた。植民地政庁がそれを東インドの学制機構の中に組み込んで公的な高等教育機関にしたものだ。

卒業生は工学卒の学術称号である Ingenieur 略称 Ir.を名乗った。現代インドネシア語では Insinyur と綴られてインシニユールと発音され、その略称の Ir.は昔のまま使われている。Ingenieur はオランダ語発音だとインヘニユール、フランス語発音はアンジェニア、ドイツ語発音ならインジェニユールなどとなり、インドネシア人はいったい何語の発音を撮り入れたのかいささか奇妙な印象を受ける。

蘭仏独がこの語を使う一方、イギリスはこの語を撮り入れなかったから、英語では BSc や MSc に該当していて、少々ややこしい関係になっている。ところが面白いことにマレーシアではインドネシアのように工学関係の学術称号として Ir.を使っており、IR Engineer という言葉がしばしば使われているようだ。[ 続く ]

## 「植民地の学校制度(終)」(2022年09月30日)

文学・哲学分野の高等教育も *Faculteit der Letteren en Wijsbegeerte* の名称で1940年12月4日にコニングスプレイン西13番地のレヘツホフスホール建物で開始された。この文学哲学学院は東インド文学・社会学・歴史学・民族学の四学科を持った。これが現在のインドネシア大学文学部の前身である。

### [ Glossary ]

ELS *Europees Lagere School* ユーロペースラヘレスホール (ヨーロッパ人初等学校)

HIS *Hollandsch-Inlandsche School* ホランスインランセスホール (オランダブリブリミ学校)

HCS *Hollandsch-Chineesche School* ホランスシネーセスホール (オランダ華人学校)

*Gymnasium Koning Willem III* ヒムナジウムコニンヴィレムドリ (ヴィレム三世王中等学校)

HBS *Hogere Burgerschool* ホヒレブルハースホール (高等市民学校)

*Lyceum* リセユム (リセウム)

MULO *Meer Uitgebreid Lager Onderwijs* ミールアウトフブレイズラーハーオンデルヴェイス (上級初等教育)

AMS *Algemene Middelbare School* アルハマーネミドルバーレスホール (一般中等学校)

*Volkschool* フォークスホール (国民学校)

*Vervolgschool* フェルフオルクスホール (継続学校)

*Schakelschool* シャクルスホール (移行学校)

*De Scholen der Eerste Klasse* ドウスホーレンデルイールステクラセ (一級学校)

*De Scholen der Tweede Klasse* ドウスホーレンデルツヴェイデクラセ (二級学校)

グロッサリー

Kweekschool クヴェークスホール (師範学校)

HIK Hollands Inlandse Kweekschool ホランスインランセクヴェークスホール (オランダプリブミ師範学校)

EKS Europese Kweek School ユーロペースクヴェークスホール (ヨーロッパ人師範学校)

HKS Hogere Kweekschool ホヒレクヴェークスホール (高等師範学校)

Landbouwschool ランツバウスホール (農業学校)

Middelbare Landbouwschool ミドルバーレランツバウ (中等農業学校)

Landbouw Hogeschool ランツバウホフスホール (農業高等学校)

Faculteit der Landbouwwetenschap ファクulteitzデルランツバウヴェテンスハップ (農業科学学院)

Hoofdenschool ホフデンスホール (プリブミ上層学校)

OSVIA Opleiding-school voor Inlandse Ambtenaren オプライディンスホールフォーイ

ンランセアムテナーレン (文民プリブミ公務員養成学校)

MOSVIA Middelbare Opleiding School voor Inlandse Ambtenaren ミドルバーレオプラ

イディンスホールフォーインランセアムテナーレン (文民プリブミ公務員養成中等学校)

Docter Djaschool ドクトルジャワスホール (ジャワ医学校)

STOVIA School tot Opleiding van Inlandse Artsen スホールトツオプライディンイン

ランセアルツェン (プリブミ医師養成学校)

GHS Geneeskundige Hogeschool ハニスクンディハホフスホール (医学高等学校)

NIAS Nederlands-Indische Artsenschool ネーデルランツインディシユアルツェンスホール (蘭領東インド医学学校)

Rechtsschool レヘツスホール (法律学校)

RHS Rechtshogeschool レヘツホフスホール（法律高等学校）

THS Technisch Hogeschool テフニスホフスホール（工学高等学校）

Faculteit der Letteren en Wijsbegeerte ファクulteイツデルレテレンエンヴェイスベヒルテ（文学哲学学院）

\* \* 昔の高等学校という名称は初等中等高等教育という教育レベルに従って命名されていたものであり、高等教育を施す学校が高等学校と呼ばれた。現在の大学に該当している。

[ 完 ]